

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02447

研究課題名（和文）高齢者による学習支援が児童養護施設入所児童の心身の健康、生活行動に及ぼす影響

研究課題名（英文）The effects of learning support offered by the senior on physical and mental health and life behavior of the children in a child welfare institution

研究代表者

内田 勇人（Uchida, Hayato）

兵庫県立大学・環境人間学部・教授

研究者番号：50213442

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、児童養護施設における高齢者の学習支援が児童養護施設入所児童の心身の健康、生活行動に及ぼす影響について明らかにすることを目的として実施した。2018年度、2019年度は順調に調査研究は進行したが、2020年度から2022年度においては新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の影響を受け、児童に対する調査を行うことができなかった。地域在住高齢者を対象として世代間交流を中心としたボランティア活動への参加の有無や各種身体・心理・社会的機能の実態とその関連要因に関する調査研究を実施した。高齢者の種々の機能には、世代を超えた交流がポジティブな影響を与えることが統計学的に示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人生百年時代を迎え、より一層の高齢者の社会参加や就業支援等が重要視される中、児童を含む若年者と高齢者間の交流活動は双方へのポジティブな効果が期待されることから、具体的な交流プログラムの構築が求められている。本研究において、世代を超えた交流活動が高齢者の種々の心身の機能にポジティブな影響を与えることが統計学的に示唆された。具体的には、高齢者の主観的健康感や生きがい感の高さ、抑うつ感の低さには同世代より若年世代との関わりの方が有意に良い影響を与えていることが示唆された。これら研究成果の学術的意義および社会的意義は高いことが推察される。高齢者にとって世代間交流は重要な活動になることが確認された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the effects of learning support by seniors on the physical and mental health and life behavior of children in child welfare institutions. The study progressed smoothly in 2018 and 2019, but from 2020 to 2023, it could not be conducted on children due to the spread of the new type of coronavirus (COVID-19), so it was not possible to survey children. Therefore, we conducted a survey and research on whether or not seniors living in the community participate in volunteer activities centering on intergenerational exchange, the actual status of their various physical, psychological, and social functions, and the factors related to these activities. The results of the analysis suggested that involvement with younger generations had a significantly more positive impact on the senior's subjective sense of health and purpose in life and lower depression than that of their peers, confirming the importance of intergenerational exchange for the elderly.

研究分野：健康教育学

キーワード：高齢者 若年 世代間交流 主観的健康感 生きがい 抑うつ 児童

## 1. 研究開始当初の背景

平成 27 (2015) 年に報告された厚生労働省の調査結果 (2015 年度調査) をみると、児童養護施設の入所児童数は 27,828 人となっている。入所児童の平均在籍期間が 4.6 年、10 年以上の在籍期間の児童は 10.9% となっており、入所年齢の低年齢化も指摘されている。児童の平均年齢は、11.2 歳であり、心身の発達が顕著な時期を施設にて過ごしている。施設職員の献身的なケアが施されている一方で、子どもの心身の健康、生活行動に及ぼす影響が危惧されている。

我が国は世界に例を見ない速さで高齢化が進行しており、高齢者の心身の健康をいかにして保持し増進させるかが喫緊の課題となっている (内閣府 2017)。元気で活発な生活を送る高齢者が数多くみられる一方で、家の中で趣味に講じたり、種々の活動をする高齢者が多いのが実情である。家の中での活動が多くなることで、社会とのつながりが希薄になり、生きがいを喪失し、心身の健康に負の影響を及ぼすことが危惧されている。

養護を必要とする児童の増加、及び高齢者における社会との繋がり希薄化の両問題に対して、早期に有効な方策を立案・実施することが喫緊の課題として認識されている。

本研究は、児童養護施設に入所している児童に対して、介入的アプローチを実施するものであり、研究課題の核心をなす学術的「問い」として、

- 1) 社会的に益々養護を必要とする児童養護施設入所児童と高齢者が学習支援活動を通じて関わりを有していくことにより、双方へ有為な影響を及ぼすのではないか
- 2) いかにして高齢者の生きがい創造の場・自己実現の場の創出をし得るか

の二点を設定した。

## 2. 研究の目的

本研究は、社会的に益々養護を必要とする児童養護施設入所児童が高齢者から定期的に学習支援を受けることにより、児童の側の日常生活行動、施設での生活、先生との関係、友人との関係、ライフイベントに対するストレス度、精神的健康度がいかなる変化を示すかについて明らかにする。高齢者が入所児童の学習支援者として活動することが、高齢者の身体能力 (体力)、人生満足度、精神的健康度等にいかなる影響を及ぼすのかについても明らかにする。両者への影響を明らかにし、早期に実施可能な方策を考案・立案する。

## 3. 研究の方法

本研究は 3 年間の研究期間において、以下の研究計画・方法により、研究目的を明らかにする。

### 1) 平成 30 (2018) 年度

対象者は兵庫県姫路市の児童養護施設に入所する小学校 1 年生から 6 年生 (50 名) 及び同市内に在住する 65 歳以上の高齢者男女 (30 名) とする。対照群として、学習支援を受けていない同市内の児童 (100 名) と同地区に在住する 65 歳以上高齢者男女 (100 名) を選び、同一の調査を実施する。介入方法として、高齢者が児童の学習支援者として週に 1 日から 3 日 (土日を含む) 施設での学習支援活動 (各教科への教育支援、読書活動、遊び・レクリエーション等) に参加する。以下の調査を平成 30 (2018) 年度 1 月に実施する。入所児童に対しては「運動をする時間」「屋外で遊ぶ時間」「不定愁訴」「抑うつ度」「日常生活行動・状況」「学校生活」「先生との関係」「友人との関係」を調査し、高齢者による学習支援活動が入所児童の日常生活行動、及び心身の健康に及ぼす影響について明らかにする。児童の「抑うつ度」は、Birlleson 自己記入式抑うつ評価尺度 (DSRS-C) を用いる。高齢者の心身の機能変化については、「医学問診」「健康度自己評価」「日常生活行動」「運動習慣」「外出行動の実態」「転倒の有無」「物忘れの程度」「各種体力テスト (握力、開眼片足立ち時間、ファンクショナルリーチ、5m 歩行時間)」「日常生活動作能力 (ADL)」「日常生活の満足度」「抑うつ尺度」等をアンケート調査用紙、及び既存の測定装置で計測する。本研究は、高齢者による児童養護施設入所児童への学習支援活動が両者の心身の健康、および児童の生活行動に及ぼす影響について明らかにする。

### 2) 平成 31 (2019) 年度・32 (2020) 年度

平成 30 (2018) 年度 1 月に実施する調査測定と同一の項目を平成 31 (2019) 年度 7 月・1 月、平成 32 (2020) 年度 7 月・1 月に行う。すなわち、6 ヶ月後、1 年後、1 年 6 ヶ月後、2 年後に追跡調査を行い、高齢者による学習支援活動が入所児童と高齢者の心身の健康、および児童の生活行動へ及ぼす影響について明らかにする。

## 4. 研究成果

### 1)平成 30 (2018) 年度

本研究は、児童養護施設における高齢者の学習支援が児童養護施設入所児童の心身の健康、生活行動に及ぼす影響について明らかにすることを目的として実施した。平成 30(2018)年度は、調査研究に協力可能な児童養護施設、および児童への学習支援を希望するシニアボランティアの各選定を平成 30(2018)年 9 月より開始した。その結果、兵庫県 A 市の A 児童養護施設より調査研究の許諾(入所児童数 19 名:小学校 1 年生から 6 年生)が得られ、65 歳以上の男性シニアボランティア 2 名より本事業への参加希望が出された。学習支援ボランティアに対する基礎的資料を得ることを目的として、ボランティアによる社会参加を希望する高齢者大学の学生 270 名を対象として、ボランティアに対する意識、社会参加の程度、精神的健康度(WHO-5)、健康度自己評価、老人用うつ尺度短縮版(Geriatric Depression Scale, GDS, Short-version)15 項目版、社会的孤立の程度等に関する自記式アンケート調査を行った。児童に対するボランティア実施の意欲は高く希望者も多かったが、活動場所、活動方法がわからず、かつ社会的に孤立状態にある高齢者の存在が確認された。複数の児童養護施設への活動機会の提供と両者のマッチングが重要になることが示唆された。平成 30(2018)年度は、伝統文化の伝承事業に関する国内外の研究報告をレビューし、その分析結果について国際会議において発表を行った。

### 2)令和元(2019)年度

平成元(2019)年度は、調査研究に協力可能な児童養護施設、および児童への学習支援を希望するシニアボランティアの各選定を令和元(2019)年 7 月より開始した。その結果、兵庫県 A 市の A 児童養護施設より調査研究の許諾(入所児童数 23 名:小学校 1 年生から 6 年生)が得られ、65 歳以上の男女シニアボランティア 3 名より本事業への参加希望が出された。スポーツ活動や学習支援ボランティアに対する基礎的資料を得ることを目的として、高齢者大学の学生 220 名を対象として、「基本属性」「主観的健康感」「精神的健康度(WHO-5)」「高齢者用抑うつ尺度短縮版(Geriatric depression scale)」「病気の既往」「老研式活動能力指標」「居住年数」「食品摂取の多様性得点」「地域愛着度」「generativity 尺度」「主観的経済状況感」「経済的満足感」「友人や家族との付き合い状況」「社会的孤立尺度」「家族構成」「生きがい感スケール」「若者イメージ」「運動継続の頻度」等に関する自記式アンケート調査を行った。スポーツ活動として、あらゆる世代で実践者が多い剣道を選択し、剣道実践者における児童・生徒との交流効果に関する分析を行った。昨年度と同様に児童に対するボランティア実施の意欲は高く希望者も多かったが、活動場所、活動方法がわからない高齢者の存在が確認された。令和元(2019)年度は、本調査で得られたデータの分析結果を国内外の学会、国際会議において発表した。

### 3)令和 2 (2020) 年度

令和 2 (2020) 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う感染対策として、調査研究に協力予定であった A 児童養護施設の協力が延期となり、児童に対する学習支援等の実施効果に関する調査を行うことができなかった。そこで児童生徒に対する世代間交流プログラムへの参加を希望する高齢者を選定し、ボランティア等の社会活動に対する意識と現在の心身の健康度との関連について調査を行った。調査の実施時期は、令和 2 (2020) 年 10 月から 12 月であった。研究参加者として、兵庫県 A 市の生涯学習大学と高齢者大学および同県 B 市の語学センターに通う 65 歳以上の者 103 名を選択した。無記名自記式調査アンケートを配布し回収を行った。調査内容は、「基本属性」「社会活動性」「主観的健康感」「精神的健康度(WHO-5)」「高齢者用抑うつ尺度短縮版(GDS)」「老研式活動能力指標」「居住年数」「地域愛着度」「generativity 尺度」「主観的経済状況感」「経済的満足感」「友人や家族との付き合い状況」「社会的孤立尺度」「家族構成」「生きがい感スケール」「運動継続の頻度」等とした。分析の結果、自らの人生経験や知識、技術を次世代へ継承したいとする generativity 得点は高いものの、対象とする児童の接触の機会ほとんど得られていないことが明らかになった。社会活動性得点には性差が認められ、男性において有意に低かった。令和 2 (2020) 年度は、本調査で得られたデータの分析結果を国内学会、国際会議においてオンライン形式にて発表した。

### 4)令和 3 (2021) 年度

令和 3 (2021) 年度においても、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う感染対策として調査研究に協力予定であった A 児童養護施設の協力が延期となり、児童に対する学習支援等の実施効果に関する調査を行うことができなかった。本年度においても、子ども等を対象とした世代間交流プログラムへの参加を希望する高齢者に対して、コロナ禍における外出頻度や余暇活動の実態、現在の心身の健康度等に関する調査を行った。調査の実施時期は、令和 3 (2021) 年 10 月から 11 月であった。研究参加者として、兵庫県 A 市の生涯学習大学校に通う 65 歳以上の者 65 名を選択した。無記名自記式調査アンケートを配布し回収を行った。調査内容は、基本属性(性別、年齢、配偶者の有無、同居形態、子の有無、孫の有無)、コロナ禍における生活の変化(外出頻度、睡眠時間、友人との交流頻度(対面・非対面)、親族との交流頻度(対面・非対面)、余暇活動頻度)、生きがい意識尺度(Ikigai-9)、SF-8TM(SF8 Health Survey)等とした。分析の

結果、先行研究と比較して外出頻度は同程度であったが、友人との交流（対面）、親族との交流（対面）、余暇活動の各頻度は減少割合が高かった。コロナ禍以前に対面での友人・親族との交流を積極的に行っていた者において、その活動の代替ができていない状況が示唆された。Iki-gai-9 得点も先行研究より低かった。生きがい感の低下には、「友人との交流（対面）」「余暇活動」のそれぞれの減少が有意に関連していた。

#### 5) 令和 4（2022）年度

新型コロナウイルスの影響は令和 4（2022）年度は若干軽減されたものの、協力を得る予定であった高齢者への感染リスクを鑑み、児童に対する学習支援等の実施効果に関する調査を行うことができなかった。そうしたことから、子ども等を対象とした世代間交流プログラムへの参加を希望する高齢者の基本的特徴を明らかにすることを目的として、日常生活動作能力（手段的 ADL、社会的 ADL、知的能動性 ADL）や心身の健康状態等に関する調査を行った。調査の実施時期は、令和 4（2022）年 9 月から令和 5（2023）年 1 月であった。研究参加者として、兵庫県 A 市の老人大学に通う 65 歳以上者 70 名を選択した。無記名自記式調査アンケートを配布し回収した。調査内容は、基本属性（性別、年齢、配偶者の有無、同居形態、子の有無、孫の有無）、コロナ禍における精神的健康度（WHO-5）、日常生活動作能力（老研式活動能力指標）、基本チェックリスト等とした。分析の結果、日常生活動作能力の高さには、年齢が若い、慢性疾患の該当数が少ない、同居家族がいる、配偶者と同居している、体操・ストレッチを実践している、オーラルフレイルの危険性が低い、起床時刻が早い等が有意に関連していた。高齢者の日々の生活機能の高さには、家族や配偶者の有無といった他者との関わりや人間関係の存在が関与していることが示唆された。

#### 6) 令和 5（2023）年度

令和 2（2020）年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、入所児童と高齢者との世代間交流事業の実施は見直しをせざるを得ない状況となった。令和 5（2023）年度は、COVID-19 の影響は軽減されたものの、児童並びに高齢者への感染リスクの高さを鑑み、児童に対する高齢者の学習支援等の実施効果に関する調査については、内容を若干変更して実施することとした。具体的には、子ども等を対象とした世代間交流プログラムへの参加を希望する高齢者の特徴を中心に明らかにすることを目的として、COVID-19 流行下における行動制限が地域高齢者の主観的健康感に与える影響について分析を行った。COVID-19 流行期に地域高齢者の主観的健康感について縦断的調査を行い、追跡調査で一部の参加者の主観的健康感が悪化した要因を検討した。その結果、「健康悪化群」では「健康維持群」と比較して「運動機能の低下」の割合が有意に高く（ $p=0.01$ ）、「老年期的な手段的自立」の因子の得点が「健康維持群」と比較して低かった（ $p=0.02$ ）。主観的健康感の悪化に関連する因子を分析するためにロジスティック回帰分析を行った結果、「運動機能の低下」が主観的健康感の悪化と有意に関連していた（ $p=0.04$ ）。この結果は COVID-19 が流行した 5 ヶ月という短い期間においても、高齢者の主観的健康感が影響を受けていたことを示唆しており、高齢者の社会参加の重要性が確認された。COVID-19 の感染状況を注視しつつ、今後、児童養護施設の入所児童と高齢者との世代間交流事業を実施したいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>西井 穂、内田 勇人                                       | 4. 巻<br>12            |
| 2. 論文標題<br>地域交流レストランにおける世代間交流の実態                           | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>日本世代間交流学会誌                                       | 6. 最初と最後の頁<br>23～31   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.57559/journalofjsis.12022331 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                     | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>瀬川 大、渡辺 裕生、内田 勇人                                 | 4. 巻<br>26(3)         |
| 2. 論文標題<br>新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行初期における地域高齢者の抑うつとその関連要因  | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>作業行動研究   | 6. 最初と最後の頁<br>158～167 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                              | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）                      | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>松本 大佑、濱口 郁枝、濱口 雅行、内田 勇人                          | 4. 巻<br>11            |
| 2. 論文標題<br>剣道を通じた交流が中学剣道部員の高齢剣道実践者イメージに与える影響：SD法による測定と横断分析 | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>日本世代間交流学会誌                                       | 6. 最初と最後の頁<br>31-39   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                              | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                     | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>松本 大佑、濱口 郁枝、濱口 雅行、内田 勇人                          | 4. 巻<br>9             |
| 2. 論文標題<br>大学剣道部員における剣道に関わる高齢者のイメージに関する研究                  | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本世代間交流学会誌                                       | 6. 最初と最後の頁<br>13-19   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                              | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                     | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>小野 くに子, 坂本 薫, 内田 勇人          | 4. 巻<br>14            |
| 2. 論文標題<br>中学校給食の牛乳の飲み残しと生活要因との関連      | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>日本食育学会誌                      | 6. 最初と最後の頁<br>227-236 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>井上 葉子, 松村 あゆみ, 内田 勇人         | 4. 巻<br>35          |
| 2. 論文標題<br>看護教員の難病患者の就労支援に対する意識に関する研究  | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>日本保健医療行動科学会雑誌                | 6. 最初と最後の頁<br>23-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Hayato Uchida, Kazushige Mizobe, Atsuko Kusano.                                   | 4. 巻<br>9           |
| 2. 論文標題<br>Progress of Japan Society for Intergenerational Studies Since Its Start in 2010. | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>日本世代間交流学会誌  | 6. 最初と最後の頁<br>37-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>矢野 真理, 作田 はるみ, 坂本 薫, 内田 勇人                             | 4. 巻<br>30          |
| 2. 論文標題<br>高齢者による高校生への行事食伝承事業に関する調査研究 行事食伝承事業が高齢女性の心理社会的機能に及ぼす影響 | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>日本食生活学会誌   | 6. 最初と最後の頁<br>21-28 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.2740/jisdh.30.3_123               | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                            | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>小野 くに子, 坂本 薫, 内田 勇人                        | 4. 巻<br>13            |
| 2. 論文標題<br>親子調理方式を取り入れた小・中学校の給食の食べ残しと生活要因との関連        | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>日本食育学会誌                                    | 6. 最初と最後の頁<br>283-296 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.14986/shokuiku.13.283 | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)               | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>矢野 真理, 作田 はるみ, 内田 勇人, 坂本 薫                    | 4. 巻<br>29          |
| 2. 論文標題<br>高齢者による高校生への行事食伝承事業に関する調査研究 - 行事食に対する意識調査結果 - | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>日本食生活学会誌                                      | 6. 最初と最後の頁<br>53-63 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                          | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                  | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀬川大, 内田勇人  |
| 2. 発表標題<br>新型コロナウイルス感染症 (COVID 19) 流行初期における地域高齢者の若年者との関わりの実態とその関連要因 |
| 3. 学会等名<br>第13回日本世代間交流学会  |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Daisuke Matsumoto, Hayato Uchida  |
| 2. 発表標題<br>Effect of Exchange Through Kendo on the Image of the elderly of Junior High School Kendo Club Members -Measurement and cross-sectional analysis by SD method- |
| 3. 学会等名<br>The Gerontological Society of America 2021 (2021年度アメリカ老年学会) (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>松本大佑、瀧口郁枝、瀧口雅行、内田勇人           |
| 2. 発表標題<br>中高年の剣道実践者における精神的健康度の実態とその関連要因 |
| 3. 学会等名<br>第11回日本世代間交流学会全国大会             |
| 4. 発表年<br>2020年                          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Uchida H, Fujiwara Y, Matsuura S  |
| 2. 発表標題<br>Social Isolation and Its Related Factors of the Participants in Senior Citizens' College in Japan |
| 3. 学会等名<br>2020年アメリカ老年学会（国際学会）   |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>松本大佑、瀧口郁枝、瀧口雅行、内田勇人                  |
| 2. 発表標題<br>運動部所属学生における高齢者イメージに関する研究 大学剣道部員に着目して |
| 3. 学会等名<br>第10回日本世代間交流学会全国大会                    |
| 4. 発表年<br>2019年                                 |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Uchida H.  |
| 2. 発表標題<br>Progress of Japan Society for Intergenerational Studies, JSIS.. GU workshop: Hindsight and Foresight of Intergenerational Studies in Japan: Birth of a Movement. |
| 3. 学会等名<br>Generations United 2019 Global Intergenerational Conference, 第20回Generations United 国際会議（国際学会）   |
| 4. 発表年<br>2019年   |



|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Uchida H, Matsuura S  |
| 2. 発表標題<br>Related Factors of Mental Health Well-being in the Participants of Senior Citizen's College |
| 3. 学会等名<br>2019年アメリカ老年学会（国際学会）   |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Uchida H  |
| 2. 発表標題<br>スポーツが幸せな長寿を創る   |
| 3. 学会等名<br>26th TAFISA WORLD CONGRESS 2019、"Sport for All Through Tradition and Innovation"、Tokyo, Japan（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Uchida H.   |
| 2. 発表標題<br>Intergenerational communication in traditional cultures between the elderly and children in Japan |
| 3. 学会等名<br>OMEP 2018, International Conference, 27 - 29 of June, 2018, Prague, Hotel Clarion（国際学会）           |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>内田勇人、松浦伸郎                                     |
| 2. 発表標題<br>2年間にわたるシニアボランティアによる教育支援が児童養護施設入所児童の学校生活に及ぼす影響 |
| 3. 学会等名<br>第9回日本世代間交流学会全国大会、兵庫県西宮市                       |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Uchida H., Quan Yuan, Inoue Y, Shinohara K., Matsuura S., Fujiwara Y.                                     |
| 2. 発表標題<br>Mental Health Well-Being and Its Related Factors of the Participants in Senior Citizens' College in Japan |
| 3. 学会等名<br>71st Gerontological Society of America, 15-19 of November, 2018, Boston, USA, Hilton Hotel (国際学会)         |
| 4. 発表年<br>2018年  |

〔図書〕 計2件

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>編著：草野 篤子、溝邊 和成、内田 勇人、作田 はるみ、村山 陽 | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>三学出版                             | 5. 総ページ数<br>316 |
| 3. 書名<br>新たな社会創造に向かうソーシャルネットワークとしての世代間交流活動 |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>第10章（スポーツと医療関連ビジネス）担当内田勇人、黒田次郎、石黒大輔、萩原悟一編 | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>叢文社                                       | 5. 総ページ数<br>9   |
| 3. 書名<br>スポーツビジネス概論 4                               |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                          | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                   | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 篠原 光児<br><br>(Shinohara Mutsuji)<br><br>(00206111) | 兵庫県立大学・環境人間学部・教授<br><br><br><br>(24506) |    |

6. 研究組織（つづき）

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                   | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 井上 靖子<br><br>(Inoue Yasuko)<br><br>(00331679)  | 兵庫県立大学・環境人間学部・教授<br><br><br><br>(24506) |    |
| 研究分担者 | 喜友名 菜織<br><br>(Kiyuna Kaori)<br><br>(30780035) | 兵庫県立大学・環境人間学部・講師<br><br><br><br>(24506) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |